

■園内発生材を活用した腰壁工および柱の木質化について

- ・森林植物園では、R3年度～R5年度に園内発生材を活用して森林展示館のリニューアルを実施。
- ・虫の穿孔痕のある材など、市場には出回らない材を活用することが可能であり、環境体験学習など、森林植物園らしい普及啓発のための展示物として活用できる。
- ・R3：1階フローリング 約130㎡のうち72.4㎡が園内産材（コナラ26.3㎡・コウヨウザン46.1㎡）
- ・R4・5：柱の木質化、腰壁（コナラ・エノキ・ウリハダカエデ・ユーカリ・コウヨウザン・コウヤマキほか）



R3 フローリング施工箇所

■園内産材の活用について

○使用木材

- ・R2～R4に発生したコナラの倒木や、ナラ枯れ被害で伐採したコナラ、およびコウヨウザン林の間伐材3本を活用

※コナラ：直径32cm～60cm、長さ1.1m～5.2mの丸太17本（材積6.8㎡分）を製材

○寸法

- ・（製材寸法）幅120mm×厚20mm×長さ2,000mm内外
- ・（製品寸法）幅105mm×厚15mm×長さ1,820mm

○園内発生材を製材活用する上での課題

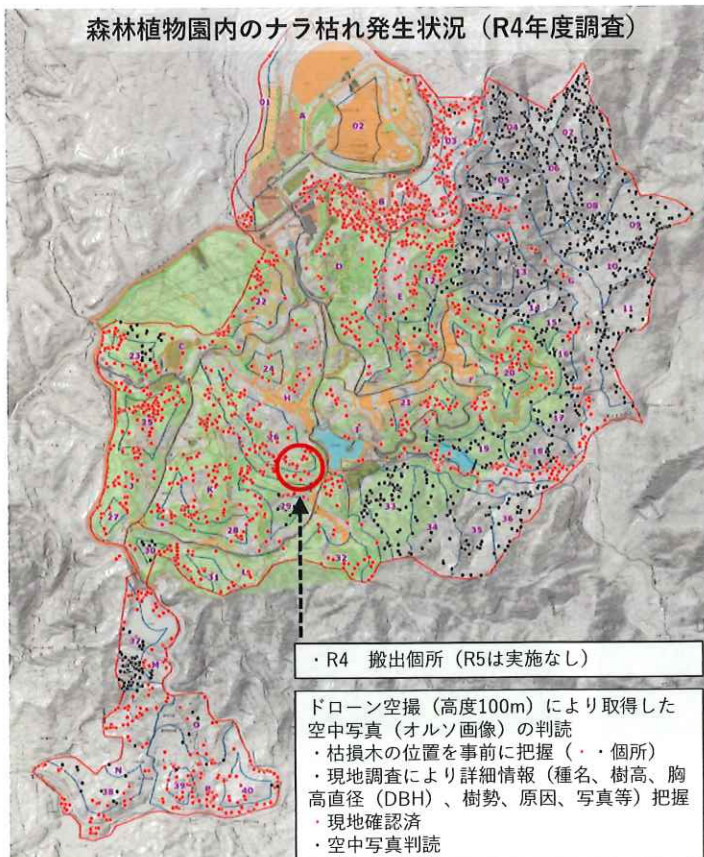
- ・製材所行の丸太をストックする土場が必要。
- ・伐採した場所から土場へ搬出できる立地条件が限定される。



柱の木質化施工前



腰壁施工前



伐採前



根株



倒伏したコナラ（R3年5月）

被害木の伐採作業状況

※ナラ枯れによりコナラが大幅に減ったため、『ドングリ広場』『コナラ広場』と呼んでいた名称を変更せざるをえない状況です。